

住み慣れた集落で誰もが安心して暮らせる地域づくりへ

- 独居世帯の生活支援のための「的場支え合う会」を設立し、高齢者への訪問活動・困りごと相談に対応。
- 非農家を含めた草刈りやドローンによる共同防除等農地保全対策の実施。



1 地区の概要

(中国山地の山々に囲まれ、自然豊かな山間地ながら神戸や大阪など都市部にも比較的近い)
——地区の概要を教えてください。

①自然的条件

多可町は、平成17年11月に旧加美町・中町・八千代町の3町が合併して誕生した町です。兵庫県のほぼ中央部に位置し中国山地（三国岳、千ヶ峰、笠形山、竜ヶ岳、篠ヶ峰など）の山々に囲まれた緑豊かな町です。

自然豊かなことや神戸や大阪などの都市部に1時間程度で行けることから近年移住される方も増加しています。

多可町の自慢は、旧3町それぞれが持っています。中町では酒米の最高峰「山田錦」発祥のまち、加美町では1000年以上の歴史を持つ手漉き和紙「杉原紙」発祥のまち、八千代町では国民の祝日『敬老の日』発祥のまちを承継しています。

多可町の総面積は、185.19km²で、山林面積が約148 km²で全体の79.8%を占めています。中山間地域であるため、平地を十分確保することができず、宅地が2.8%、田畠が8.1%となっています。

多可町では健康の一環としてウォーキングを推奨しており、ウォーキングコースも充実しています。一般社団法人 多可の森健康協会が運営する「多可町健康保養地」では、毎週ウォーキングイベントを開催しており、癒しの森を巡ることができます。

②歴史的条件

的場地区には、7世紀末に役行者によって開山され、730年に行基によって本堂が建立されたと伝えられている、高野山真言宗 金蔵寺があり、山岳寺院の典型で、修験修行の道場として多くの修行僧で栄えていました。

金蔵寺には、鎌倉時代（1253年）につくられた、兵庫県指定文化財の紺紙金泥法華経「8巻」が奉納されています。

また当地区には、荒田神社があります。天平勝宝元年（749年）、少彦命名が村内の福原字神立に天からお降りになり、その夜、村内に大雨が降りました。村人は雨が上がるのを祈ったところ願いがかない、これに感激して村内字野尻に小社を建て、荒田神社として称したと伝えられています。

平安時代には坂上田村麿の崇敬を受けたと伝えられているのをはじめ、播磨国二宮として、多くの崇敬を集めてきた神社です。

（酒造好適米「山田錦」をはじめとする水稻の作付が盛ん、「播州百日どり」が特産品）

——地区の農業について教えてください。

第1次産業は、南北に流れる奥荒田川・多田川を中心に形成される山間田園地帯で、豊かな自然環境と肥沃な土地に恵まれ農業が盛んな地区です。

主に水稻の作付けが多く、多可町が誇る酒造好適米「山田錦」や良品質の「コシヒカリ」が多くをしめています。

特産としては、播州百日どりがあります。「播州百日どり」はその名の通り、卵から孵化しておおむね100日間肥育される播州の鶏です。生産地は、’78年の誕生以来、一貫して兵庫県多可町内です。

「播州百日どり」は、広々とした鶏舎の中を走り回って大きくなり、鶏が大きいゆえに肉厚は充分です。大きくほおばって噛んだ瞬間、口中にジュワっと肉汁が広がります。また、一般的に鶏のむね肉はパサつくものが多いのですが、「播州百日どり」はむね肉もしっとりふっくらしています。唐揚げにしてもおいしいと好評です。



2 地区の抱える課題

（地区住民の高齢化及び独居世帯の増加）

——地区の課題について教えてください。

どこの地区にも共通していることですが、高齢化問題が課題となっています。多可町の高齢化率は、37.73%に対し、的場集落の高齢化率は37.89%と町よりも0.16%高い高齢化率となっています。その要因としては、仕事などによる若者の町外への流出等により独居老人が増加していると考えています。

そのため、農地の遊休化も進み、保全対策に苦慮しています。

また、高齢世帯が増えることにより、自宅周りの掃除や買い物など日々の生活の場において支援を必要としている世帯が、表面には現れず増えてきているのが現状です。その解決策として、地域での「声かけ」や「話し合い」が必要と考えていますが、若い世代には荷が重いように思います。

3 取組の経緯

(高齢者世帯の増加に対応するために「的場支え合う会」を設立)

——取組を始めた経緯を教えて下さい。

的場地区は、これまで行ってきた町の「愛育会」から脱退しましたが、高齢化による独居世帯が増え続けている現状を考えると、各隣保長（的場地区は、12の隣保により構成されています。）がその役目を担い愛育活動の担当者を兼ね、民生児童委員との連携を図るようになりました。

これにより、担当者と民生児童委員等が独居世帯の清掃活動などに取り組んできましたが、この活動や愛育活動を応援する組織が必要であるとの意見が多くあったことから、平成30年に「的場支え合う会」を設立しました。

4 取組の内容

(アンケート調査を実施し、必要な支援を把握。また高齢者のためのコミュニティ施設を開設)

——どのような取組を行いましたか？

「的場支え合う会」は、区長・副区長・農会長・村づくり協議会代表・老人クラブ正副会長・老人クラブ女性部正副会長・消防団代表・婦人会正副会長・民生児童委員・民生児童協力委員等が構成員となり、初期は、高齢者への訪問活動・困り事相談、高齢者宅の庭木の剪定や草刈り作業、コミュニティサロンの施設の充実を活動内容として利用者の要望に応じて実施してきました。

高齢者宅の庭木の剪定や草刈りについては「お助けボランティア」の募集を行い、出役可能な住民で庭木の剪定周辺の草刈りなどを実施してきました。

その後、高齢者にとって必要な支援とは何か地区全世帯を対象にアンケート調査を行った結果、コミュニティーバスが廃止されたこともあり、買い物や通院など交通弱者の外出支援を希望されている方がおられることから、新たに「外出支援事業」を立ち上げました。

的場地区の高齢者や障害を持つ方、自力歩行が可能な方、昼間の外出が必要な方を支援しています。

外出支援については、集落内で募集を行い利用者が希望される日に運転が可能な方へ依頼し支援を行っています。

運転手については、燃料代が必要となるため、行き先により100円から600円の負担を利用者にお願いしています。

コミュニティサロンの施設については、消防団の人員減少に伴い隣接地区と合併したことにより、旧消防詰め所を高齢者のコミュニティ施設「いきいきサロン」として活用しました。しかしながら、当初より段差がありすぎたため、高齢者は昇降に苦慮する状況であったため、手すりや踏み台を設置することにより、安全に昇降できるよう段差解消を行いました。



5 取組の成果

(高齢者の憩いの場ができ、外出支援やお助けボランティアの活用により集落に活気)

——取組の成果はありましたか？

上記の取組により、外出支援としては9件の利用がありました。また、お助けボランティアとして、高齢者宅の庭の剪定など3件の利用があり、周辺の住民からはうっそうとしていた景観が良くなり地区全体が明るくなったと喜ばれています。コミュニティ施設を修繕し、安心してくつろげる空間の整備により、高齢者の憩いの場として多くの方に活用いただいています。

(「的場支え合う会」の設立を契機とした、非農家を含めた農地保全の取り組み)

——「的場支え合う会」の設立による効果はほかにありましたか？

「的場支え合う会」の中でも消防団等若い世代のメンバーが「草刈り隊」を結成し、令和4年度は5回の草刈りを実施しました。

6 人材、資源、制度の活用方法、工夫

(コミュニティサロンの活動や草刈り等農地保全活動に直払交付金の加算措置を活用)

——交付金はどのように活用しましたか？

中山間地域等直接支払制度の集落機能強化加算措置については、コミュニティ施設の修繕に伴う費用や外出支援事業に伴う車の燃料代に充当しています。

また、農地の保全としては、集落内で消防団世代の若者を集め「草刈り隊」を設置し、遊休農地やため池の草刈りなどに出役をしてもらい、日当を支払うことにより農地の環境保全に努めています。

また、生産性向上加算措置については、ドローンの共同防除の体制を確立させるため、防除作業委託の経費に活用しています。

7 苦労した点、克服方法

(住民の理解と協力を得るために何度も話し合いを重ねることが重要)

——何に苦労されましたか？

活動当初は、高齢者宅の草刈りや庭木の剪定などは、民生児童委員や区長など数人でボランティアを行っていましたが、思った以上に時間と労力が必要なため、要望される件数をこなすには容易なことではありませんでした。

そのため、支援できるボランティア参加者の輪を広げようと募集アンケート調査を行いましたが、賛同いただける方が少ない状況でした。しかし、話し合いを重ね、将来の自分たちに置き換えていただいたことで各代表の理解も深まり、平成30年に「的場支え合う会」を立ち上げることが出来ました。

8 地区の今後、他の地域に伝えたいこと

(地区が出来る範囲で高齢者のお手伝い)

——地区の今後について教えてください。

当地区の今後の目標としては、ボランティアの確保と高齢者への手助けとして、業者へ依頼すれば高い費用が必要となります。業者に頼むほどではない（棚の修理・電灯の付け替え・草引き等）が、D I Yが得意な人や専門職のO B等と連携をとって更に高齢者の方が生活しやすくその活動により高齢者の安否等の確認ができる体制づくりを行い高齢者が住み慣れたところで安心して暮らせる地域作りを行っていきたいと思います。

他の地区からも誰に声を掛け集めるのか。利用者の洗い出しあるのに行うのか。といった問い合わせもありますが、各隣保の役員が一番事情を知っていると思いますので、役員会等で話をすることが必要だと思います。

年齢差が大きくなるほど声掛けはしにくくなると思います。見守りや支え合う活動を行うことで、高齢者が住み慣れたところで安心して暮らせる地域作りを行っていただきたいと思います。